

# 2009年7月22日皆既日食を安全に楽しく体験しよう 専用の観察めがねを使いましょう。

みなさんもお存じのように、太陽光線は強烈でそのまま観察することは不可能です。子供のころ、黒いたじきやプラスチック板を使って太陽の観察をした経験のある方も多いでしょう。しかし、実はこの方法では目に見えない赤外線さえさえることができないので、長時間観察を続けると目がチカチカして、気づかないうちに目を火傷させる危険性があります。



最悪の場合、網膜に損傷を受け視界の一部が失われるなどの回復不能な傷害（日食網膜症）が残り失明の恐れもあります。



昔はガラスにすずをつけたものも使いましたが、これは黒いたじきやプラスチック板よりは光の量を減らすことができますが、赤外線対策には不十分です。

安全に日食の観察をするためには、太陽の光を十分に減らすための道具（日食グラス等）が必要です。現在、日食観察専用のめがねは、インターネット上で1個300円程度から市販されています。これらは、きわめて高い遮光性をもっているため、長時間の観察でも安心して使用することができます。

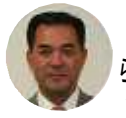
## 21年度新任職員のご紹介

### 環境文化村センター



**事務局長/副館長 川内 誠**

久しぶりの離島生活、しかも単身です。山にも登って、環境にも身体にもやさしい生活をしたいと思います。



**事業課長 桑原 幸夫**

屋久島のことを知っているようで、知らなかったと痛感しております。体験を通して、情報発信していきたいと思ひます。



**事業課主査 戸越 雄一郎**

屋久島の自然、文化、歴史、そしてたくさんの人とふれあいたいです。どうぞよろしくお願いいたします。

・名前  
・一言コメント/新任の抱負



**研修課主事 恒松 友和**

4月から研修センターで働くことになりました恒松です。まだ右も左もわからない状態ですが一生懸命頑張ります。よろしくお願いいたします。



**研修課主査 山崎 和哉**

生まれも育ちも屋久島ですが新しい発見ばかりの毎日です。いろんなことに興味を持ち屋久島の事を島内外に伝えたいと思ひます。



**研修課インストラクター 丸 宏樹**

【するのは失敗何もしないのは大失敗】やってみなきゃ始まらない！何事にもチャレンジしたいと思ひます。

### 環境文化研修センター

～財団職員がそれぞれの想う「屋久島」について語るコーナー～

連載【屋久島を想う】 49



### 『これから...』

村センター勤務：森田 千草さん

登山の好きなところ。朝のひんやりとした澄んだ空気。顔にささるような冷たい風。友人との会話。目指した先での温かい飲みもの。素晴らしい景色。達成感。下山後の温泉。そして筋肉痛。

初めて山の中に入ったのが幼稚園での遠足。目的地は“万代杉”。当時の写真を見ると、先生方、多くの保護者に見守られ、助けられながら登ったんだと改めて思う。

その後も学校や集落行事、また村センターで働き始めてから色々な経験をさせてもらった。こんな場所があるなんて！と何度感動したか。

不便なこともあるけれど、この島に住んでいるんだから思いっきり楽しみたい！

そして自分が連れて行ってもらったように、逆の立場になった時案内できる、そんな島人になりたいな。

## 今月のおすすめBook

棕鳩十動物童話集第1巻

「片耳の大シカ」

著者：棕 鳩十

【見どころ・読みどころ】

著者は児童文学作品だけでも多くの作品を残していますが、屋久島を舞台に、厳しい自然の中で生き抜く動物の姿を描いた「片耳の大シカ」は、これまで教科書の教材にも登場し、人々によく知られている著者の代表作のひとつです。

小学校中～高学年向きですが、動物の生態を、生息する自然の中で正確に描き、動物と人間が自然の中で共存する大切さを訴えています。表題作ほか3編収録されています。

出版社：小峰書店

大きさ：A5版/111頁

棕鳩十動物童話集<全15巻>は、屋久島環境文化研修センターの自然ライブラリーで閲覧できます。（貸出はできません。）

屋久島環境文化村中核施設

5・6月休館日のお知らせ

休館日 毎週月曜日

ゴールデンウィーク期間中は開館します。